



法学部長

中島 康予

Yasuyo NAKAJIMA

「居場所」から「持ち場」へ

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。そして皆さんがこの日を迎えるまで、皆さんを支え、共に歩いて来られたすべての方々に心からお祝いを申し上げます。

1885年、若き18人の法律家によって英吉利法律学校が創設されて今年で130年。「グローバル人材」の魁であった創設者たちは、自分たちがイギリスやアメリカで学んできたことをふまえ、原理や原則に拘泥するのではなく、置かれている状況で最善の解決策を模索していく態度を重んじました。これが、中央大学の建学の精神「**實地應用ノ素ヲ養フ**」であり、「**行動する知性。**」というユニバーシティ・メッセージとして受け継がれています。

では、今を生きる私たちが置かれている状況とはどのようなものでしょうか。「グローバル化」が進展し、多様な価値や利益を追求する人びとの交流を促進したり、そこに生じる紛争や対立を未然に防止したり解決することが一層大切になっています。また、「3.11」は、今、そこで、問題に直面している人々に寄り添い、そこを自らの「持ち場」と定め、問題解決に真摯に取り組む人たちの価値を高めています。このような取り組みのリソースの在り処を学び、その用い方を共に考え、知性を磨くことが法学部での学びです。

皆さん一人ひとりが、中央大学法学部を自分自身の「居場所」と定め、未来の「持ち場」で輝くその日まで、私たちは、皆さんの志と夢を応援します。



経済学部長

谷口 洋志

Yoji TANIGUCHI

教育課程最後の高等教育課程の スタート時点に立って

皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんは、小学校から始まる初等教育、中学校・高校での中等教育を経て、最終段階の高等教育機関である大学に進学されました。保育園や幼稚園のプレスクール時代、小学・中学の義務教育時代、高校時代をあわせると、人によってはすでに15年の教育を受け、さらに今後4年間をこれに積み上げることになります。大学の次に期間2年から5年の大学院もありますから、大学入学後、9年間の学生生活が続く方もおられることでしょう。

皆さんは、教育課程の最終段階である高等教育課程のスタート時点に立っておられます。大学で勉強しても役立たないとか、大学に行かなくても生きる上では困らない、という意見をときどき耳にしますが、私には、それは勉強したくないという本心を隠そうとする逃げ言葉にしか聞こえません。高等教育が、社会や人類の発展に欠かせない貢献をしてきた(している)ことを私たちは忘れるべきではないと思います。

中等教育課程において皆さんが一定の苦勞を味わったとすれば、高等教育課程で皆さんが味わう苦勞がそれを下回ることではないと考えるべきです。しかし、中等教育課程までの受け身的な勉強に対して、高等教育課程では自発的、自主的な勉強が中心となるために、自分なりの面白さや楽しさを発見し、苦勞以上の大きな喜びを得る可能性があります。

今後の4年間で単なる苦勞や苦痛だけで終わるかどうか。それは、皆さんが今後どれだけ自発的、自主的に大学での課題や問題に取り組むかに依存します。私たちは、そうした皆さんの4年間を見守り、できる限りの支援をしたいと考えています。